

2020年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名(英)	研究ゼミナール (Seminar of Study)		
ナンバリングコード	J31702	大分類 / 難易度科目分野	機械電気工学科 専門科目 / 応用レベル 研究キャリア
単位数	2	配当学年 / 開講期	3年 / 後期
必修・選択区分	必修		
授業コード	J181553	クラス名	島元研究室
担当教員名	島元 世秀		
履修上の注意、履修条件	やむを得ない場合を除いて遅刻欠席をしないこと。研究ゼミナールでは講義式の課題・演習・討論などありますが、物質の本質に関して自ら学ぶことを推奨します。		
教科書	特になし。		
参考文献及び指定図書	静電気学会誌、電気学会誌、IEEE、JESなど		
関連科目	卒業研究		

○授業の目的・概要等							
授業の目的	機械電気工学科のディプロマ・ポリシーに基づき、研究ゼミナールでは講義式の課題・演習・討論などありますが、物質の本質に関して自ら学ぶ力をつけることを目的とします。						
授業の概要	第1週目では自己紹介・研究ゼミナールの説明を行い、その後の講義では文献調査・討論・レポート作成などを適宜行います。第15週目に班全員で取り組んだ課題論文の提出をします。						
授業の運営方法	<table border="1"> <tr> <td>(1) 授業の形式</td> <td>「演習等形式」</td> </tr> <tr> <td>(2) 複数担当の場合の方式</td> <td>「該当しない」</td> </tr> <tr> <td>(3) アクティブ・ラーニング</td> <td>対話・議論型授業(グループディスカッション・ディベート) 他</td> </tr> </table>	(1) 授業の形式	「演習等形式」	(2) 複数担当の場合の方式	「該当しない」	(3) アクティブ・ラーニング	対話・議論型授業(グループディスカッション・ディベート) 他
(1) 授業の形式	「演習等形式」						
(2) 複数担当の場合の方式	「該当しない」						
(3) アクティブ・ラーニング	対話・議論型授業(グループディスカッション・ディベート) 他						
地域志向科目	該当しない						
実務経験のある教員による授業科目	大分大学大学院にて電気電子工学及び環境工学に関する研究従事(平成12年4月～平成18年3月)						

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確認等)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	やむを得ない場合を除いて遅刻欠席をしない。		10点	15点
【知識・理解】	研究ゼミナールで取り組んだ専門分野の基礎的な内容を理解できる。		30点	5点
【技能・表現・コミュニケーション】	研究ゼミナールで取り組んだ専門分野について基本的な説明ができる。			5点
【思考・判断・創造】	与えられた課題に対して学び、要点を簡潔にまとめることができる。		30点	5点

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)	
レポートなどの提出物は提出期限を守ること。 やむを得ない場合を除いて遅刻欠席をしないこと。 「その他」に記載している機械電気工学科のディプロマポリシーに関連しています。 レポート等は、授業内で解説、または島元研究室(4号館2階、4213)で適宜対応いたします。	

○その他	
レポートは提出する前に文章構成を行い、フォーマットの確認をして下さい。	
ディプロマ・ポリシー【学位授与の方針】	
評価基準の観点[関心・意欲・態度]	
機械・電気技術の産業界での役割を考え、身につけた技術や知識を上手く活用し、社会の諸問題に対して主体的に取り組み、常に自発的に学び続ける意欲を持つことができる。	
評価基準の観点[知識・理解]	
機械と電気の両工学分野にわたる基礎・基幹技術を習得の上、工学基礎から応用に至るプロセスを理解し、情報技術を駆使して工学的諸課題に対する技術的な判断と対応ができる。	
評価基準の観点[技能・表現・コミュニケーション]	
産業界の期待に応え、技術力・問題解決能力を持ち、ものづくりに対して機械と電気の両側面からのアプローチを果敢に行い、チームにおけるリーダーシップを発揮できる。	
評価基準の観点[思考・判断・創造]	
機械と電気に関して学ぶ内容と産業界とのつながりを体系的に理解して、技術者としての倫理を身につけ、社会・地域の発展に寄与できる技術力・創造力を持っている。	

2020年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名：研究ゼミナール (Seminar of Study) 担当教員：島元 世秀	授業コード：J181553
学修内容		
1. 自己紹介・ガイダンス/授業内評価 自己紹介と研究の内容説明などを行います。		
予習：文献調査・討論・レポート作成等についてレポートにまとめる		(約2.0h)
復習：自己紹介・ガイダンスについてレポートにまとめる		(約2.0h)
2. 文献調査・討論・レポート作成など/授業内評価 研究のテーマの選定を行い、文献調査などを行います。		
予習：文献調査・討論・レポート作成等についてレポートにまとめる		(約2.0h)
復習：文献調査・討論・レポート作成等についてレポートにまとめる		(約2.0h)
3. 文献調査・討論・レポート作成など/授業内評価 文献調査・討論、レポートの作成などを適宜行います。		
予習：文献調査・討論・レポート作成等についてレポートにまとめる		(約2.0h)
復習：文献調査・討論・レポート作成等についてレポートにまとめる		(約2.0h)
4. 文献調査・討論・レポート作成など/授業内評価 文献調査・討論、レポートの作成などを適宜行います。		
予習：文献調査・討論・レポート作成等についてレポートにまとめる		(約2.0h)
復習：文献調査・討論・レポート作成等についてレポートにまとめる		(約2.0h)
5. 文献調査・討論・レポート作成など/授業内評価 文献調査・討論、レポートの作成などを適宜行います。		
予習：文献調査・討論・レポート作成等についてレポートにまとめる		(約2.0h)
復習：文献調査・討論・レポート作成等についてレポートにまとめる		(約2.0h)
6. 文献調査・討論・レポート作成など/授業内評価 文献調査・討論、レポートの作成などを適宜行います。		
予習：文献調査・討論・レポート作成等についてレポートにまとめる		(約2.0h)
復習：文献調査・討論・レポート作成等についてレポートにまとめる		(約2.0h)
7. 文献調査・討論・レポート作成など/授業内評価 文献調査・討論、レポートの作成などを適宜行います。		
予習：文献調査・討論・レポート作成等についてレポートにまとめる		(約2.0h)
復習：文献調査・討論・レポート作成等についてレポートにまとめる		(約2.0h)
8. 文献調査・討論・レポート作成など/授業内評価 文献調査・討論、レポートの作成などを適宜行います。		
予習：文献調査・討論・レポート作成等についてレポートにまとめる		(約2.0h)
復習：文献調査・討論・レポート作成等についてレポートにまとめる		(約2.0h)

○授業計画	科目名：研究ゼミナール (Seminar of Study) 担当教員：島元 世秀	授業コード：J181553
学修内容		
9. 文献調査・討論・レポート作成など/授業内評価 文献調査・討論、レポートの作成などを適宜行います。		
予習：文献調査・討論・レポート作成等についてレポートにまとめる		(約2.0h)
復習：文献調査・討論・レポート作成等についてレポートにまとめる		(約2.0h)
10. 文献調査・討論・レポート作成など/授業内評価 文献調査・討論、レポートの作成などを適宜行います。		
予習：課題論文についてレポートにまとめる		(約2.0h)
復習：文献調査・討論・レポート作成等についてレポートにまとめる		(約2.0h)
11. 課題論文の執筆など/授業内評価 文献調査・討論などを適宜行い、課題論文の執筆を行います。		
予習：課題論文についてレポートにまとめる		(約2.0h)
復習：課題論文についてレポートにまとめる		(約2.0h)
12. 課題論文の仮完成・課題論文の仮提出など/授業内評価 文献調査・討論などを適宜行い、課題論文の検証をし、仮完成させます。		
予習：課題論文についてレポートにまとめる		(約2.0h)
復習：課題論文についてレポートにまとめる		(約2.0h)
13. 課題論文の検証など/授業内評価 文献調査・討論などを適宜行い、検証実験などを行います。		
予習：課題論文についてレポートにまとめる		(約2.0h)
復習：課題論文についてレポートにまとめる		(約2.0h)
14. 課題論文の完成など/授業内評価 文献調査・討論などを適宜行い、課題論文を完成させます。		
予習：課題論文についてレポートにまとめる		(約2.0h)
復習：課題論文についてレポートにまとめる		(約2.0h)
15. 課題論文の提出/授業内評価 文献調査・討論などを適宜行い、課題論文を提出します。		
予習：		
復習：課題論文についてレポートにまとめる		(約2.0h)
16. 予備日		
予習：		
復習：		